

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

340号

2019年6月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

「韓統連の完全な名誉回復と帰国保障のための対策委員会」が発足

4月23日、ソウル市中区貞洞(チョンドン)のフランススコ会館で「韓統連の完全な名誉回復と帰国保障のための対策委員会」の発足記者会見が行われた。

最初に、対策委員会代表の崔炳模(チュ・ビョンモ)民主社会のための弁護士の集い(民弁)元会長が、「盧武鉉政権下の2003年に海外民主人士の帰国保障のための対策委員会」の招待で韓統連メンバーの母国訪問を実現したことで問題は解決したかと思っていたが、李明博・朴槿恵政権によって再び韓統連が不当な弾圧を受けることになった。韓統連の完全な名誉回復と帰国保障を実現するために対策委員会を立ち上げた」と明らかにした。

次に、林鍾仁(ム・ジョンイン)対策委員会執行委員長は「韓統連は、日本社会であらゆる差別を受けながらも、祖国の民主化と発展のために運動してきた団体で、朴正熙政権によって不当にも反国家団体に規定され旅券発給を拒否されてきた。韓統連の完全な名誉回復と帰国保障を実現することは、韓国社会の民主化のための緊急な課題だ」と強調した。

続いて、金昌五(キム・チャノ)韓統連大阪本部副代表委員が当事者として発言した。金氏は「在日同胞社会と韓統連に対する理解を助けるために私の個人史をお話したい」と話を切り出した。1955年に日本の大阪で出生したこと。父が3歳、母が5歳の時に日本に渡ってきたので3世に近い在日同胞2世であること。日本の名前で生活し日本の学校に通い続けてきたこと。中学校の時に地下鉄のトイレで「朝鮮は帰れ!」の落書きを見てとても怖かったこと。差別から逃れるために韓国人であることを隠して生きてきたこと。18歳の時に、初めて韓統連傘下の青年組織である韓青

(在日韓国青年同盟)に参加し、母国語と祖国の歴史を学び始めたこと。4月革命の歴史に感動して祖国の民主化と統一のために生涯努力すると決心したこと。民主化運動に没頭すればするほど祖国に対する愛情が深まり、祖国の地を踏みたい熱情にかられるようになったが、独裁政権による旅券発給拒否により祖国は遠ざかっていったこと。

そんな金氏が初めて祖国大韓民国の地を踏んだのが2003年9月19日だった。金氏はその日を人生の最大の記念日だと言いながら、涙にむせぶ自身の写真が掲載された当時の新聞記事を紹介した。



▲発足記者会見で発言する金昌五副代表委員

金氏は最後に「息子夫婦は在日同胞3世で孫は在日同胞4世です。私の幼い頃は、「朝鮮は帰れ!」というトイレの落書きでしたが、今の日本社会は「朝鮮人を殺せ!」と街頭に立ってマイクを持って叫ぶ社会です。在日同胞4世5世が民族意識を胸を張って

持って堂々と生きていくためには祖国自由往来の権利が保障されなければなりません」と訴えた。

最後に対策委員会メンバーが記者会見文を朗読し「大韓民国で民主化運動に関与した人たちは、大統領や大臣や国会議員になっているというのに、日本でともに運動してきた韓統連はいまだに反国家団体のままだ。一日も早く政府が韓統連の名誉回復と会員たちの帰国を保障することを強く要求する」と訴えた。

対策委員会は、近く国家人権委員会と国会、大統領府などに問題提起する予定だと明らかにした。この日の会見は、その日のうちにハンギョレ新聞をはじめ多くのメディアで報道された。

キャンドル革命で誕生した文在寅政権の下で、一日も早い韓統連の名誉回復が求められる。

クイズを通じて南北首脳会談と 板門店宣言の内容などを再確認する

韓統連大阪本部春季野遊会

昨年4月の南北首脳会談で発表された「朝鮮半島の平和と繁栄、統一に向けた板門店宣言」から1周年を記念して、韓統連大阪本部主催で「4・27板門店宣言発表1周年記念 春季野遊会」が5月5日(日)、久宝寺緑地公園のファミリー広場(八尾市)で開かれた。

野遊会では、金隆司(キム・ユンソ)大阪本部代表委員が「今日は天候も良く、野遊会には最適です。焼肉を食べながら、楽しい一時をすごしましょう」と乾杯挨拶を行った。



▲クイズを通じ板門店宣言の意義を再確認する

その後、参加者は七輪を囲み焼肉を食べ、ビールを飲みながら親睦と交流を深めるとともに、特別企画として「板門店宣言発表1周年クイズ」が行われ、楽しい雰囲気の中で、昨年4月27日の南北首脳会談と「板門店宣言」の内容と意義を再確認した。そして最後に記念写真の撮影を行い、野遊会は終了した。

光州精神を継承し

徹底した真相究明を要求する 光州民衆抗争39周年関西地域集会

1980年5月の光州民衆抗争から39周年を迎え、韓統連関西協議会の主催で「光州民衆抗争39周年 南北共同宣言履行! 自由韓国党反対! 在日韓国人関西地域集会」が5月19日(日)、学働館(大阪市西区)で開かれた。

集会では初めに、光州民衆抗争で犠牲になった

方々に対する民衆儀礼を行った。

続いて、金隆司韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「39年前に起きた光州民衆抗争の真相究明は現在も行われていません。そればかりか積弊勢力である自由韓国党の議員が光州民衆抗争を否定する妄言を繰り返しています」と述べながら、「私たちは徹底した真相究明の実現を訴えるとともに、光州精神を継承して、朝鮮半島の平和・繁栄・統一を実現させましょう」と語った。

次に、韓国で行われた光州民衆抗争39周年追悼行事に、今年初めて韓統連代表団が参加し、その活動などを紹介する映像資料が上映された。続いて、朴明哲(パク・ミンチョル)韓統連中央本部組織局長が情勢講演を行った。



▲情勢講演を行う朴明哲組織局長

朴組織局長は、光州民衆抗争を鎮圧した全斗煥(チョン・ドゥファン)が自身の回顧録で光州民衆抗争を「暴徒」と表現したり、自由韓国党の議員が「光州民衆抗争に北が介入した」などの妄言が繰り返されていることを報告し、「遺族などが強く反発している、光州民衆抗争の真相究明を急がなくてはならない。具体的には▲発砲命令を下したのは誰なのか、▲犠牲者及び行方不明者の数、▲ヘリコプターからの発砲の有無が明確にならなければならない」と語った。

続いて、朴組織局長は最近の韓国国会をめぐる動きについて「来年の総選挙に向けて、現在の比例代表並立制から比例代表連動制に変わろうとしている。この変更で議席が減る可能性が高い自由韓国党が猛反対している」と述べながら「自由韓国党の再執権を防ぎ、民意が議員数に反映されなければならない」とし、最後に「39年間、光州

精神を継承してきたことを自負し、自主・民主・統一運動をより進めていこう」と訴えた。

情勢講演終了後は質疑討論、学生協、韓青、韓統連各代表からの決意表明、決議文採択が行われ、最後に崔孝行(チェ・ヒョハク)韓統連兵庫本部代表委員が閉会挨拶を行い、集会は終了した。

G20大阪反対行動プレ企画として 小倉利丸さんが講演 5・11小倉利丸さん講演会

6月28日～29日、G20(20カ国地域首脳会合)が大阪で開かれるのを前に、G20大阪NO!アクションウィーク実行委員会の主催で「サヨナラ安倍 サヨナラ・トランプ! G20大阪NO!アクションウィーク5・11プレ企画小倉利丸さん講演会」が5月11日(土)、エルおおさか南館(大阪府中央区)で開かれた。

講演会では、実行委員会共同代表の服部良一さんの開催挨拶の後、富山大学名誉教授である小倉利丸さんが講演を行った。

小倉さんは、最初にG20の設立の意図について「G7(先進国首脳会議)を中心に、G20にその影響力を拡大しつつ、途上国を含むグローバルな政治経済秩序を維持することが目論まれた。しかし、現在は中国を中心とする新たな世界秩序が形成されつつある。G20の性格も変質している」と語った。

続いて、G20の問題点について「先進国から途上国まで幅広い国家が参加するため、全てを合意するのは困難であり、たとえ合意しても条約ではないので拘束力はない」などと指摘するとともに、「G20が開催される国ではテロ対策を名目に莫大な予算と治安監視が行われ、市民の自由を奪っている。毎年、開催国では多くの市民が公権力と衝突しながらも反対運動を行ってきた。大阪でも今からしっかり準備していかなくてはいけない」と訴えた。

講演後は質疑応答とリレートークが行われ、リレートークには崔誠一(チェ・ソンイル)韓統連大阪本部事務局長も参加し、現在の朝鮮半島情勢についてアピールを行い、最後に今後の行動提案が行われ、講演会は終了した。

関西生コン支部への不当弾圧糾弾 拘束者の早期釈放を訴える 5・15座り込み集会

全日建連帯労組関西地区生コン支部に対する公権力の不当弾圧が続く中、大阪地方裁判所で開かれる公判にあわせて「5・15労働組合つぶしの大弾圧を許さない! 座り込み集会(主催:労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会)」が5月15日(水)、西天満若松浜公園(大阪府北区)で開かれた。



▲集会には多くの労働組合などの関係者が参加した

集会では初めに、全日建設連帯労組中央本部の小谷野書記長が「関生支部への弾圧に対して多くの皆さんが抗議し、支援してくださることに感謝します。今後も継続した行動で関生支部を支えていきます」と挨拶した。

続いて集会に参加した各労働組合、市民団体代表からアピールが行われた後、裁判を傍聴するグループと座り込みを続けるグループに分かれて行動が続けられた。

座り込みを続けるグループでは、各団体及び個人から不当弾圧を糾弾する発言や各自の活動紹介などが行われた。

裁判は夕方まで続き、終了後、弁護団から「検察側は、威力業務妨害だとする証拠のビデオを上映したが、まったく証拠になっていない」と裁判報告が行われ、今後も共に闘っていくことを確認し、座り込み行動は終了した。

光州民衆抗争39周年 韓国政府主催記念式及び汎国民大会に参加して 李 鐵 (イ・チョル)

今年、1980年5月の光州民衆抗争から39周年を迎え、5月16日～19日まで光州で開かれた光州民衆抗争39周年記念行事に韓統連訪問団が参加しました。今回の訪問団には李鐵 (イ・チョル) 韓統連大阪本部常任顧問が参加し、感想文を書いて頂きました。

私は5月17日から「光州民衆抗争39周年韓統連訪問団」の団員として光州を訪問しました。今回の訪問団の一員としての立場からの感想を書きます。

5月17日、午前6時30分に自宅を出発して一路光州へ。関西空港から釜山経由です。正午頃には釜山の金海国際空港に到着しました。列車で釜山駅から光州へ向かう計画でしたが、釜山駅から光州への直行便はないとのこと。バスが便利だと教えてもらい、バス乗り場までタクシーで移動。釜山のバスターミナルから光州行きのバスに乗り、光州に向かいました。バスが光州近くまで着くころには辺りは夕闇に包まれ、道路は帰宅を急ぐ車で一杯でした。

バスを降りて一息つくと、今回の訪問団の副団長を務める金知栄 (キム・ジヨン) 韓統連祖国統一委員会委員長

から電話が入っているのに気づき、通話を試みしました。金副団長との通話で先に到着したソウル経由組みは、午後6時から錦南路 (クムナム) を行進して、全南道庁前の前夜祭に参加すると聞かされて、せきたてられるようにタクシーに乗り指定された宿舎へ向かうよう頼んで後部座席に座ったのですが、運転手は不機嫌そうにスマホに向かって声を上げて、住所を告げて経路を確認し、急発進します。今回の訪韓は運が良くないようです。渋滞にはまってしまいました。私が遠慮気にどれぐらいかかるか聞くと、運転手が「今日は前夜祭と行進で交通規制があつて思うように進めない」と教えてくれました。私が再び金副団長に通話をし、今どこかと聞くと「行進が始まって道庁へ向かっている」と言うので、「私もそちらへ向かう」と応えて電話を切ると、運転手が私が車に乗



▲錦南路を行進する韓統連訪問団(中央が李顧問)

った目的が5・18行事に参加することを悟ったらしく、急に親切になりました。車を降りると雨が降り出しました。地下街の店で傘を買って、行進隊の中にいるだろう訪問団を必死に探します。車道は車が封鎖されデモ隊で埋め尽くされています。プンムル隊が鉦や太鼓を叩いて行進しています。一人の僧が白い衣をまとって雨の中を鉦、太鼓の音に合わせて回りながら踊っています。行進する人も、歩道で見送る人も一体となって叫んでいます「自由韓国党を解体しろ」「黄教安 (ファン・

ギョアン) は謝れ」39年目の光州は怒っています。やっと仲間と合流することができました。私は遅れを取り戻すかのように横断幕をもって行進に参加しました。残念ながら大雨で前夜祭は途中で中止となりましたが、沢山の知り合いと出会い、何十回となく歌った「あなたのための

行進曲」を39年前の闘いの現場で歌いました、涙がこみ上げてきます。皆こぶしを振り上げ歌っています。私の前に光州市長がいます。朴智元 (パク・チウォン) 国会議員もいます。日本で出会った友人も見かけます。幼い子供をつれています。皆ずぶ濡れです。

翌日、韓国政府主催の「5・18民主化運動記念式」と望月洞 (マウォルドン) 墓地での追慕式、夕刻は「5・18真相究明汎国民大会」参加しました。李昌馥 (イ・チャンボク) 6・15南側委員会常任代表議長をはじめ多くの人と出会いました。特に印象に残ったのは、光州米文化院放火義挙参加者P氏、汎民連光州本部の方、この方は昨年開催された汎民連南側本部の総会でもお会いした人です。とても有意義な光州訪問でした。

【コラム】

景福宮にのぼる煙 2

前回は壬辰倭乱の際に景福宮を焼いたのは民衆であるという定説を紹介しつつ、その根拠となった史料である『宣祖修正実録』を見た。その結果、壬辰倭乱当時を記録した『実録』には2種類あり、景福宮焼失の記事に差異があることを確認した。

1616年(光海君8年)に編纂された『宣祖実録』では景福宮を焼いた実行者を記していないが、1657年(孝宗8年)に編纂された『宣祖修正実録』では「乱民(反乱した民衆)」と記していた。

ではこの「乱民」の話はどこから現れたのだろうか。実はこの話は壬辰倭乱勃発時に左議政(副宰相)であった柳成龍(リュ・ソリョン)が記した文集『西厓集』にも出てくる。2つの『実録』の編纂時期の狭間である1633年(仁祖11年)に刊行されている。「壬辰(1592年)4月30日。(国王の)車駕が城を出た。乱民は最初に掌隷院と刑曹を焼いた。この2つの官庁には公私の奴婢の文籍があったためだ。…(後略)…」。

『宣祖修正実録』の記事と類似する史料であり、その元の史料となったか、少なくとも情報源を同じくするものだと推測される。さらに言えば、この話は柳成龍が目撃したものではなく、後の伝聞によるものだと言える。なぜならば柳成龍はこの時、深夜にソウルを脱出する国王に随従しており、彼は夜明け頃になってソウルの城をふりかえり「南大門内の大倉に火が起こって、煙と焰が空高くあがっていた(懲愆録)」と様子をようやく視認したのみである。この時のソウルの状況は知りようがなかった。事後になって当時の情報を整理する中、こうした話を聞いたのだろう。

1616年に編纂された『宣祖実録』では、この「乱民」の話を取りまとめるに至らなかったようだ。しかし『西厓集』で「乱民」の話が記述されるようになり、やがて1657年に編纂された『宣祖修正実録』において件の記事が採用された。

朝鮮王朝の『実録』は基本的に春秋官(史官)が毎日国王に付き従って記す時政記や史草を基礎にして作られるが、その他の歴史文献などを参照することもある。国王が都を離れ、当時のソウル

の状況を史官が記すことができなかつたため、この「乱民」の話が挿入されたものと思われる。

以上、見たように景福宮を焼いたのは「乱民」であるという説は、伝聞による情報ではあるが『実録』に記される程の信憑性を持つものと判断される。

しかし一方で、やはり景福宮を焼き払ったのは日本の軍兵であるという説もある。壬辰倭乱で日本の軍兵が焼き払ったものは多い。実際、『西厓集』においても景福宮を焼いたのは民衆であったが、宗廟を焼き払ったのは日本の宇喜多秀家だとしている。また、翌年に小西行長がソウルから撤退する際、民衆の内応を恐れて虐殺しソウル城内



▲景福宮永濟橋

の家屋を焼き払ったことも述べている。ソウル城内が灰燼と化したのは決して民衆だけの手になるものではなく、むしろ日本の軍兵による被害が大きい。加えて、日本の軍兵がソウルを占領した時にはまだ景福宮が焼けていなかったことを伺わせる史

料が存在しており、それが「倭賊」が景福宮を焼いた説の根拠となっている。つまり焼け残っていた景福宮を小西行長がソウルを撤退する時に城内の家屋と共に焼き払ったのではないかという話だ。

根拠となる史料の一つは大関定祐『朝鮮征伐記』だ。小西軍二万余の兵がソウルに入城する際、人々が全て逃亡し空虚となった宮殿の様子を描写している。

「内裏に入りて見れば、宮殿空しうして、四門徒(いたずら)に開けたり。是れこそ殿閣を熟と見るに、城闕雲に聳え、楼台玉を瑩(あつ)め、其綺麗なる有様、秦宮の壯麗を模し、艮岳の景趣にも過たも石の堞山の如し。…(中略)…諸寮俱に開き、監士、宮門を守らずば、何方も物哀れなり。心なき荒夷、さしもに猛き小西も、天子の御座を押し奉り、神さび旧びたる気色に催され、両眼に涙を浮べしかば、宗対馬・有馬・大村も、坐(そぞろ)に涙を催しける」。

この描写を素直にとれば、日本兵がやってくるまでソウルの景福宮は健在であったと思える。しかし、この史料にはかなりの疑義がある(つづく・好)。

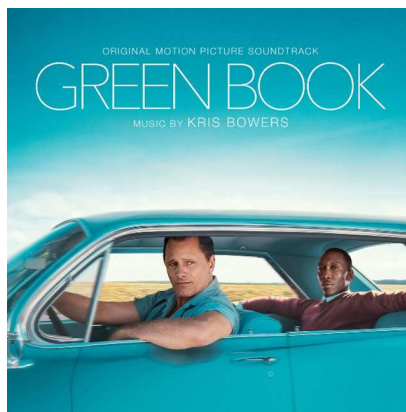
◆◆映画紹介◆◆

「グリーンブック」

5月の連休、久しぶりに映画館で映画を見ました。やっぱり自宅でDVDを見るより、大きなスクリーンで映画を見る方がダイナミックで音響も良く、映画館の良さをあらためて実感しました。ところで皆さん、6月から映画料金が上がること知っていました？某大手映画館では一般大人料金が1800円から1900円になります。昔は映画館で映画を見るのが庶民の娯楽の一つでしたが、そのうち2000円になる時代も近いかもしれません。

本題に入ります。今回紹介する映画は、自主(チヤジユ)で紹介するのは珍しい米国映画で「グリーンブック」です。この映画、実話をもとに制作され、今年のアカデミー賞で作品賞などを受賞しました。

物語を紹介すると、時代背景は1960年代の米国。イタリア系米国人のトニー・リップはナイトクラブの用心棒をしていましたが、お店が閉店となり失業します。彼は家族を養わなければいけません。そんな時、黒人音楽家の運転手をやらないかとお誘いがあり、もともと黒人に対して差別感情をもっていたリップでしたが、家族を養うために面接に行き、もう一人の主人公アフリカ系米



国人で天才ピアニストのドン・シャーリーと出会い、一緒に米国南部へのコンサートツアーに出発します。

ツアーの出発前、レコード会社の関係者からこの映画の題名「グリーンブック」を渡されます。グリーンブックとは米国南部で黒人が安心して食事をしたり、宿泊できる場所などの情報がまとめたガイドブックのことです。この時代、米国南部の黒人差別は凄まじいものがありました。ドンがピアノを演奏する時は白人も拍手を送りますが、楽屋は物置のような部屋、食事は別の場所などなど露骨に黒人を差別します。

2人はツアー中、衝突したり、助け合ったりしながらツアーを続け、やがて仲の良い仲間となっていきます。共に行動するリップは、ドンはなぜ差別の厳しい南部地域をツアーで回るのか疑問を持つようになります。その答えは映画の後半で出てくるのですが、その台詞は現在にも当てはまるのではないかと私は思いました。

ロードムービー(旅の途中で起こる様々な出来事が、映画の物語となっている)の要素もある映画です。ぜひ皆さん見てください。(ソソ)

◆行事案内◆

**朝鮮戦争・休戦協定締結66周年、シンガポール共同声明と板門店宣言の履行による
東アジアの恒久平和の実現をめざす7・26大阪集会**

日 時：7月26日(金)午後6時 受付 午後6時30分 開会

場 所：エルおおさか(京阪・地下鉄天満橋下車徒歩7分)

内 容：康宗憲 韓国問題研究所代表による講演／参加者からのアピールなど

資料代：1000円

主 催：同実行委員会

問合せ：06-6583-5549(全日建連帯労組近畿地方本部)

編集後記

5月26日(日)、第26回統一マダン生野が開催されました。天候にも恵まれ、多くの方々が参加しました。次号で詳しく紹介したいと思います。お楽しみに。(ソソ)